

令和4年度 第2回 番匠川水系学識者懇談会 議事要旨

【1】日時 令和4年12月7日(水) 15:00~17:00

【2】会場 大分県庁 新館5階 51会議室

【3】出席者

〔委員〕

大上和敏委員、小田毅委員、加藤正明委員、島田晋委員、立川淳也委員、
東野誠委員、日高悦久委員、本谷るり委員

8名出席

〔事務局〕佐伯河川国道事務所 大分県河川課

【決定事項】

事業評価対象となる番匠川直轄河川改修事業について、審議の結果、前回再評価以降も事業の必要性は変わっておらず、今後も順調な進捗が見込めることから、対応方針(原案)のとおり、引き続き事業を継続することについて了承を得た。

【番匠川直轄河川改修事業の事業評価について】

◆委員の意見等 ●事務局の回答等

◆番匠橋地点の $3,100\text{m}^3/\text{s}$ とあるが、これはいつ決定したもので、この流量は基本高水流量計画高水流量どちらか？

● $3,100\text{m}^3/\text{s}$ は平成18に策定した「番匠川水系河川整備計画」での数値。

番匠川水系の基本高水流量や計画高水流量は「番匠川水系河川整備基本方針」で $3,600\text{m}^3/\text{s}$ と定められている。

◆ $3,100\text{m}^3/\text{s}$ は見直すのか？

●現行整備計画の $3,100\text{m}^3/\text{s}$ に対して、平成29年洪水は $3,600\text{m}^3/\text{s}$ が流れており。

今後、見直す予定はあり、気候変動を踏まえた基本方針の見直しについても検討する。

番匠川水系の基本高水流量や計画高水流量は「番匠川水系河川整備基本方針」で $3,600\text{m}^3/\text{s}$ と設定されている。

◆平成18年策定の整備計画での流量が $3,100\text{m}^3/\text{s}$ で確率は $W=1/40$ 年規模である。

前回の懇談会でも意見したが、やはり見直しは必要と考える。

次回以降の懇談会で説明して頂けると期待している。

◆地球温暖化等の影響から見ても番匠橋地点での $3,100\text{m}^3/\text{s}$ は見直しするべきである。

環境面の要望としては、現在、農業用水路等は三面コンクリート張りとなっており、生き物の生息場所は限られてくるので、今あるアゼの水路を残すなど、生き物に配慮した整備を積極的に行ってほしい。

ため池(湿地)が増えればビオトープの役割を果たし、生き物の多様性にもつながる。

◆今後、整備計画の内容を見直すと言っていたが、現行の計画で良く見えるので、今後の見

直しについて、頭出しの様な書き方はできないか？

◆事業については、順調に進んでおり良いと考える。残事業もB/Cが2.2あるので今後も進めて良いと思う。

●見直しについては、前回の懇談会でも見直した方が良いと意見を頂いたので、見直しの作業を進めているところ。

再評価については、ルールに乗っ取って見直しの計画に並行して、作業を行っている。

◆気候変動を見据えた基本方針を変更はいつ頃になるのか。時期が中途半端だと整備計画の内容に影響しないか。

●基本方針の見直しについては、見直す方向で動いているだけであり、内容や時期については未定である。また、基本方針は整備計画の上位計画であり、整備計画の数値は基本方針の内数となる為、基本方針が気候変動を見据えた変更を行ったとしても、整備計画へは影響しない。

◆その他意見がないようであれば、今回の懇談会の結果、資料-2のp9に記載する、「対応方針(原案)」のとおり、事業を継続するという事で良いか？

●〔各委員〕・了承する。